

823
M8N2

戰江入楚

零漂

14

一

二

三

四

五

六

七

八

九

十

十一

十二

十三

十四

十五

十六

十七

十八

十九

二十

二十一

二十二

二十三

二十四

二十五

二十六

二十七

二十八

二十九

三十

三十一

三十二

三十三

三十四

三十五

三十六

三十七

三十八

三十九

四十

四十一

四十二

四十三

四十四

四十五

四十六

四十七

四十八

四十九

五十

五十一

五十二

五十三

五十四

五十五

五十六

五十七

五十八

五十九

六十

六十一

六十二

六十三

六十四

六十五

六十六

六十七

六十八

六十九

七十

冷標

元七歲

私十月ヨリ元八歳ノ十一月迄ノ事ノヨリ

十月奉為改院行沛八講

御門与尚侍御物詔

元八歲

二月任内大臣

二月春宮御元服

御案十一云

同元余日春宮受禪

兼香殿御腹御子立坊

同時源氏大納言任内大臣

致仕元大長為攝政太政大臣

歳六十二云

宰相中將任權中納言

權中納言四君腹女君可入内

歳十二云

二条院東院造作

花より里より何せんおかし

三月十六日明石上座

女君

宿曜師勘申源氏御子可有三人之由

中世よりいふ政をいふと位を極めしやうと云ふ事

少將君是之

夏

鄧射院司木夏

弘羊殿女御是也

此日明石上同詣任者遙奉見源氏夏

惟光以源氏君夢紙欽連昭石上夏

齊宮歸京六条廊皂下固瘡為危受

源氏請六条御息所給受

送書於前齊宮吏

七八日以後御息所卒去受

軍功六步成

奉御文於前少宮夏

院御方念六条前所宮夏

源氏糸入道宮申前放宮入内受給事

けろんそなり

なひーれー乃

勝月夜

おろろせめい大をふれりやうのくろひひつら

昇皇右后まなうーあれあに石名

勝月夜と云く朱薙れそーあくあくハ腕の又大臣を石名を
姉あておひれそと水炊之又朱薙れと位を玄海乃乃水名あれハ
くく腕乃使るれをそとくつひあふといあふあつてあ
くくあふーあ

名あに記さふあて

け様そくハけあふて腕之そ名あ

とにく川之さふんせくゆりくくあふあふおひれそ

朱薙れあふりくつ作くゆく

人ふふひあ

朱薙れ即腕乃源氏くく朱薙れハ

おもひあてくゆく

くくくれあて

朱薙れあふくハ腕あふゆり

あふりくく人

是と源氏をけて作く

あふりくくあふくくくくくくくくくくくくく

腕乃くくくくくくくくくくくくくくくくくく

朱薙れくくくハ源の腕をくくくくくくくくく

朱薙れのあふりきくくくくくくくくくくくく

けのくくくくくくくくくくくくくくく

女あふりくくく

腕乃くくく源のくくく作くあふ人

くくくくくくくくく

くくくくくくく

朱薙れあふり

くくくくくく

又朱薙れの即腕之あふり源氏くくハ源の

を作くくくくハ腕の版中く子くくくくくくく

本を作くく

くくくくくく

腕乃く

くくくくくく

朱薙れ腕と腕のく

くくくくくく

也

是ハ朱薙れ乃あふりくくくくくくくくくくく

朱薙れと源氏くくく次くくくくくくくくく

くくくくくく

朱薙れの家あふり

[illegible]

有客在門

落雲女院

吟泉 妻より涙く所より 似のころとお月を公あ邊に受てて
うらわしうく多しやし
主上 朱雀 乙 春宮 吟泉 をうくし
足りいて玉と泣きよへ 勇事なりけれいさうせりふて

おれ月廿六日所由なり

御之服此後同二月步余日御讓國

私延壽乃女也御位上八朱雀

承平此

はるあひて主次林と

天曆承平此故乃御才に御位とほさるべき今も朱石

或謂沈氏之讓位也先帝崩而太子幼沈氏失位而

源公光帝位をさし給ふ位をゆつり源公光讓位し云御子なり

中にも兄弟に御位をゆづり給ふ事なく譲位す

私大浚云因離泥水冷泉院安和二年_{己巳}八月十三日即位十一年_{己巳}

十五即位六乙巳唯十子紀

界子氏貴翁
りりてら

御玉璫と石璫の区別は

己に於て悔あるも其を

朱履大坡之官之海之海之

位とろひてはひなれとて年々いふふきは

ひきつりさめ
言
ア
テ

方及後代

城上之兼魚屋子及之

兼在屋

其宮公第書屏風より之

[illegible]

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
330
331
332
333
334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
377
378
379
380
381
382
383
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
400
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486
487
488
489
490
491
492
493
494
495
496
497
498
499
500
501
502
503
504
505
506
507
508
509
510
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
549
550
551
552
553
554
555
556
557
558
559
560
561
562
563
564
565
566
567
568
569
570
571
572
573
574
575
576
577
578
579
580
581
582
583
584
585
586
587
588
589
590
591
592
593
594
595
596
597
598
599
600
601
602
603
604
605
606
607
608
609
610
611
612
613
614
615
616
617
618
619
620
621
622
623
624
625
626
627
628
629
630
631
632
633
634
635
636
637
638
639
640
641
642
643
644
645
646
647
648
649
650
651
652
653
654
655
656
657
658
659
660
661
662
663
664
665
666
667
668
669
670
671
672
673
674
675
676
677
678
679
680
681
682
683
684
685
686
687
688
689
690
691
692
693
694
695
696
697
698
699
700
701
702
703
704
705
706
707
708
709
710
711
712
713
714
715
716
717
718
719
720
721
722
723
724
725
726
727
728
729
730
731
732
733
734
735
736
737
738
739
740
741
742
743
744
745
746
747
748
749
750
751
752
753
754
755
756
757
758
759
760
761
762
763
764
765
766
767
768
769
770
771
772
773
774
775
776
777
778
779
780
781
782
783
784
785
786
787
788
789
790
791
792
793
794
795
796
797
798
799
800
801
802
803
804
805
806
807
808
809
810
811
812
813
814
815
816
817
818
819
820
821
822
823
824
825
826
827
828
829
830
831
832
833
834
835
836
837
838
839
840
84

朱雀院 （即位と云）

今上 （品よりまゐるにかりけり）

右大臣 （りつれ此れ）

兼香殿 （りつれ此れ）

兼香殿 （りつれ此れ）

いふなり

代りりりてあつて

源氏忠大納言内大臣小治のいぬ殺さるる事

内大臣天智天皇八年十月十五日内大臣大藏冠後原朝臣源子

任内大臣此時位在右大臣上 （去孝徳天皇元年） 其時毎大ノ字其

後官久役至光仁御宇後原良純典名未任初次右大臣

任下令外官也右大臣内大臣がふりて内大臣はあつて

教定りて内大臣は令外官なり

私云凡三云太政大臣右大臣此三人のよき内大臣

さふ官に大藏冠れぬるにあつて令を撰きしりりて
いふれぬるに後任する人なりて中納言あつて令に
不載えにせしめられぬるに又いふに令より後代の事
一勅さるるに右大臣下れしに依て内大臣は外に内大臣
なり

やうにせしめしりりて （源氏忠大納言と執事人なり）

私執政乃若中納言と強譲しそま上父下を執政させ彼等
にせしめし

執政大臣

執政しつて

れ内を執政しつて

後醍醐

後醍醐天皇

表をせりてちの政をせりて

冷泉院十一歳で御元服なり即位す

れ時執政しつて後和天皇貞観六年御元服なり

忠仁公良房執政之詔をせりて例は唯より六十三歳

仁公此例よりあるはさるべき

一勅忠仁公良房攝政之例、六十三ノ年齢、其の各お遷之
攝政異朝唐堯時舉舜為攝政殷湯以伊尹為阿衡周成王幼
而即位外又周公且攝政漢昭帝又幼而即位博陸侯霍光奉
武帝遺詔攝政如周公故吏怨乃以周公且霍光為監陂園白
省漢宣帝云霍光猶執非幼主之故還政宣帝猶重其人令陂
白乃陂園白号自此而始
本朝中哀天皇崩後皇后攝
政平三韓而歸筑紫誕生皇子、在襁褓皇后猶攝政遂臨天
下六十余年雖同正帝奉稱攝政其後履中天皇以平群作宿
稱為攝政推古天皇太子府戶皇子、攝政齊明御宇皇太
子中大兄皇子又攝政清和天皇幼而即位外舅大政大臣坂
原朝臣良房、忠仁公奉父兄遺詔而攝政貞觀八年八月十九日
始蒙攝政宣下、去天孝二年十月七日始行内外曆更是以人臣攝政之初也尔降
彼一門為執柄之臣、昭宣公也白陽成天皇元慶四年十一月八日詔
右大臣正二位坂原朝臣基經、始為園白、元攝政是又園
白之元始也昔行天皇五十二年八月以武内宿禰為棟梁

無攝政号

履中天皇二年始置更四人

執政數人

答田天皇代

平群木薨宿禰為攝政

やういふりて位をもた
うけむる一攝り次
人忠小もつてつり

是より執政大臣群退ノ初

私世終るも、ね時源氏

ありし中より、はるまじ

又是より又此例をもつて攝政をもつとせり

氣

漢高祖戚夫人を寵するよりて、朝王如意を太子おさる人

とせり、時呂太后ありしれは、呂氏よりつりとて、呂氏よりつり

能ありし中より、はるまじ

の隠士をもつて、はるまじ

とせり、はるまじ

て、はるまじ

り、はるまじ

ふり、はるまじ

漢高祖欲易太子呂后恐問留侯々々計曰願上不能教者天

下有四人々々者年老矣為書使辨士固請宜來於是呂后奉
太子迎此四人々々至高祖置酒太子侍四人從太子年皆八
十有余鬢眉皓衣冠甚偉上恠之問云彼何為者四人前對各
言名姓曰園公角里先生綺里季裝黃公上乃驚云羽翼已成
難動矣 史記

さしあがりしをたれ

契 汝は人老又若政しる例

た政たにたりし

河 天智天皇十年正月以大友皇子

始為太政大臣 忠仁公貞觀八年八月十九日始為太政大臣
年六十三 此例死 弘太政官當友統八省及諸国天

下受悉交此官也故云都省本名乾政官

大政大臣師範一人儀取四海益其人則闕故則闕之官有
從之機故非其人者常不任之又益職掌之官也

女中しるし

汝は大臣と病なりしを

さしあがりしをたれ
女中しるし

さしあがりしをたれ
女中しるし

は相中將に及
は相中將に及

位今日元此官仍為令外此但其雲四年又至之
相當從三位

十二は女中しるし
此奉小冷泉院 尚令 一系りして

は相中將に及
は相中將に及

私これしるしをたれ
私これしるしをたれ

さしあがりしをたれ
さしあがりしをたれ

柏木大納言 女中しるし
紅梅右大臣 凡門者 友宰相

以中將 慈人少將 八郎君 弘徽殿女御 母同柏木
夕旁大長室 母極崇大和女今之也方

大坂のりれりる

源氏れりる夕旁

は當時極園之父為前官以家内覧旨之^時称大殿而今大改太長
其身極政子息極中納言也号大殿也余不審れ重 物をきけ
多あやいのあや くらりりり

大坂のりる夕旁とよひりる夕旁とよひりる夕旁とよひりる
大坂と大坂といひりる夕旁とよひりる夕旁とよひりる
極政大改太長人せれ人あやりる夕旁とよひりる夕旁とよひりる

大坂と大坂といひりる夕旁とよひりる夕旁とよひりる
一都と一都といひりる夕旁とよひりる夕旁とよひりる
うりる夕旁とよひりる夕旁とよひりる夕旁とよひりる
極政大改太長人せれ人あやりる夕旁とよひりる夕旁とよひりる
夕旁とよひりる夕旁とよひりる夕旁とよひりる

わらわらりる

夕旁とよひりる夕旁とよひりる夕旁とよひりる

夕旁とよひりる夕旁とよひりる夕旁とよひりる
夕旁とよひりる夕旁とよひりる夕旁とよひりる
夕旁とよひりる夕旁とよひりる夕旁とよひりる
夕旁とよひりる夕旁とよひりる夕旁とよひりる

夕旁とよひりる夕旁とよひりる夕旁とよひりる
夕旁とよひりる夕旁とよひりる夕旁とよひりる
夕旁とよひりる夕旁とよひりる夕旁とよひりる
夕旁とよひりる夕旁とよひりる夕旁とよひりる

夕旁とよひりる夕旁とよひりる夕旁とよひりる
夕旁とよひりる夕旁とよひりる夕旁とよひりる
夕旁とよひりる夕旁とよひりる夕旁とよひりる
夕旁とよひりる夕旁とよひりる夕旁とよひりる

夕旁とよひりる夕旁とよひりる夕旁とよひりる
夕旁とよひりる夕旁とよひりる夕旁とよひりる
夕旁とよひりる夕旁とよひりる夕旁とよひりる
夕旁とよひりる夕旁とよひりる夕旁とよひりる

夕旁とよひりる夕旁とよひりる夕旁とよひりる
夕旁とよひりる夕旁とよひりる夕旁とよひりる
夕旁とよひりる夕旁とよひりる夕旁とよひりる
夕旁とよひりる夕旁とよひりる夕旁とよひりる

少子 宗子也

おやう

齊

河上懷妊乃幸

五子語子也而必以此書爲大

義を却て得る也

源の御と海に及ぶ素交御之服よりうらけ地御ふゆり

下之海に北東に連なるなり

三月一日 廿四

五月六日乃決より懐妊のしつ
月石

此卷又ありけ之月十ヶ月ふあふり

十六日火

堯

あゝ初よ一日はとちりきり後よ

あしは

如子之欲

石中宮之光源氏也

千時門下

母明名入道女

贈皇后宮友原胤子門大臣高友女母交野大炊弥盃女之擬此吏

53

あゝうに御子三人見ゆ成なるひと生れり中々おどい

右政太下はく信をさすくやんふありふあり
 おくやと版おむくやんふありふあり

花

宿曜小源氏此涕子三下
由中多氏多雲其反下

冷泉院明石中宮是之後御門冷泉院之明石中宮是了之

中々おろといふ音ねおろい多人をとり留まぬ曲門后ろ

なほくちかたよりいふ
るに但々考へ竹河は凡そ
そ

ありて後此畢をいふ中、祐の中に右君なりと云ふも、又此

松々此薨逝中と物言ひ居るされハ終末大改大改と云

ありて推定するに物候より推定するより

此の如く腹は女中や、
云々、明名工と云ふ事

此よりいふと酒の守れ増すよりそよりけ板とて

私に事あるを、後進や師の密趣あるを悟経たる時の事

を以て中ねるもあらうと云ふは、
其の意は、

うほふのをちとせめいなるもわがしとてぬき

ちれめを念ふに
たりと回ふあり
めありて
ありて
ありて

斗
兒
子
公
約
力
下
人
義
ノ
義
又
三
斗
上

なりけりこゝにゆきつゝや

突いゝゝゝゝゝゝゝ

私にりれていねなまそけなり

車中くや

光のやれゝゝあけのさゆをいふ

帝よりゝゝゝゝゝゝ

皇女禊子

三余院皇女 陽明門院是也
御母中宮新子 御母園白也

長和二年七月十六日降誕即日被奉御叙是其例也

光れゝゝゝゝ

宰相君

石上院よりゝゝゝゝゝゝ

ありゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

入道忠孝のいふ

つるれぬきれさゆをありゝゝゝ

源のありゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ふもゝゝゝゝゝゝ

いふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

私利に法度をつひのつるれ

源氏

いふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

君り代を阿ふれゝゝゝゝゝゝゝゝ

はゝゝゝゝゝゝゝゝ

はのゝゝゝゝゝゝゝゝ

光れゝゝゝゝゝゝゝゝ

おゝゝゝゝゝゝゝゝ

初乃ゝゝゝ

いふゝゝゝゝゝゝ

ありゝゝゝゝゝゝゝゝ

私源のゝゝ子ゝゝゝゝゝゝゝゝ

ちれゝゝゝゝゝゝ

月石娘のゝゝゝゝゝゝ

きゝゝゝゝゝゝ

もゝゝゝゝゝゝゝゝ

むゝゝゝゝゝゝ

諸ノ字れゝゝゝゝゝゝ

なけゝゝゝゝゝゝ

い乳ぬれゝゝゝゝゝゝ

あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

よりれゝゝゝ

ありゝゝゝゝゝゝゝゝ

れゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

夜源のゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝ

京乃御史のゝゝゝ

御ゝゝゝゝゝゝ

ありゝゝゝゝゝゝ

是より

ありゝゝゝゝゝゝゝゝ

い娘ゝゝゝゝゝゝ

ありゝゝゝゝゝゝ

河三張紙に
「是」字と署して

源の極くありす事可々空山

てうりよてあふるしうちのまはあめりかたを
こしなるとなりしうちのまはあめりかたを

花
是
ふ
ふ
ふ
ふ
と
源
の
中
に
あ
る

或御説はふとん

[illegible]

私はあゝをといふ程あけ花の夢よりうへに次は明石と
の舟と海のつひのふさふさゆきそふの月桂すしとさう
うらうらあきと云と海の色とるるにあふりあり

齊源社刻之明石上此本張氏之

明名姫天竺来多しりくおふん

弄卒尔之

明石を云源氏のふれげふれはち

別
あ
も
り
な
る
ま
う
は
お
し
る
に
ふ
え

秀
明石是此志也煙乃才又つて幸可くふりて

そのふれゝらゆめうゝゝの秘乃
明石巻ふらゝゝの

福と云ふやうに燃れ去るやうに
燃れ去るやうに燃れ去るやうに

是よりいふは思ひのこり

紫を源の御事なりけりあはれ御事なり

なまなりとくも明名之

[illegible]

此の源よりわきあふる

天明石塘三月十六日誕生五月廿日ハ卒日ハあり

其五十九日ハ後之三月十六日ハ卒日ハあり
何事といふありいふあり

あゝいふありいふあり
男子ハ瑞男ヲ言ハれり

あゝいふありいふあり
あゝいふありいふあり

あゝいふありいふあり
あゝいふありいふあり

あゝいふありいふあり
あゝいふありいふあり

あゝいふありいふあり
あゝいふありいふあり

あゝいふありいふあり
あゝいふありいふあり

あゝいふありいふあり
あゝいふありいふあり

あゝいふありいふあり
あゝいふありいふあり

あゝいふありいふあり
あゝいふありいふあり

あゝいふありいふあり
あゝいふありいふあり

あゝいふありいふあり
あゝいふありいふあり

あゝいふありいふあり
あゝいふありいふあり

あゝいふありいふあり
あゝいふありいふあり

あゝいふありいふあり
あゝいふありいふあり

あゝいふありいふあり
あゝいふありいふあり

夜あともあふにまけ

明石もみぢれまうさうさうさう

此御使なぐいやれよなく

む末よりれ中史んせい御れ夜

れ端やうさうさうさう

めれともこの女君れよななを

昇 明石とれま

おさくたぬぬん

わいこわいこわい源乃京より

さうさうさうさうのほむなわいさうさうさうさうさう

あせふさういんさうさうさうさうさうさうさうさう

源のよりさうさうさうさうさうさうさうさう

いんち中さういん

あつさうさうさうさうさうさうさう

これさうさう

わいれさうさうさうさうさうさう

おとれさうさう

あつさうさうさうさうさうさう

いんち中さういん

なうりさうさうさうさうさう

島師 日本紀 勇 徳武

ういんち中さういん

あつさうさうさうさうさう

明石もみぢれまうさうさう

あつさうさう

あつさうさうさうさうさう

あつさうさうさうさうさう

あつさうさうさうさうさう

あつさう

あつさうさうさうさうさう

あつさうさう

あつさうさうさうさうさう

あつさうさう

あつさうさうさうさうさう

あつさうさうさうさうさう

あつさうさうさうさうさう

あつさう

あつさうさうさうさうさう

あつさう

あつさうさうさうさうさう

あつさうさうさうさうさう

哥みなりとあらんやうらめあかき一途さゆて

女をとりゆたり しの源とたのめ

うらめとあらぬやうなれ におとよせあかき

奥人 しのゆのゆりきふくやれしれをいふおにゆきつるわ

ゆきふくやれ ちやもけりけるはあかき一途さ

きふくやれいりこを ちれゆなれわかれはる

きふくやれいりこを ちれゆなれわかれはる

きふくやれいりこを ちれゆなれわかれはる

きふくやれいりこを ちれゆなれわかれはる

きふくやれいりこを ちれゆなれわかれはる

きふくやれいりこを ちれゆなれわかれはる

きふくやれいりこを ちれゆなれわかれはる

きふくやれいりこを ちれゆなれわかれはる

きふくやれいりこを ちれゆなれわかれはる

きふくやれいりこを ちれゆなれわかれはる

きふくやれいりこを ちれゆなれわかれはる

きふくやれいりこを ちれゆなれわかれはる

きふくやれいりこを ちれゆなれわかれはる

きふくやれいりこを ちれゆなれわかれはる

きふくやれいりこを ちれゆなれわかれはる

きふくやれいりこを ちれゆなれわかれはる

きふくやれいりこを ちれゆなれわかれはる

きふくやれいりこを ちれゆなれわかれはる

きふくやれいりこを ちれゆなれわかれはる

きふくやれいりこを ちれゆなれわかれはる

きふくやれいりこを ちれゆなれわかれはる

きふくやれいりこを ちれゆなれわかれはる

きふくやれいりこを ちれゆなれわかれはる

きふくやれいりこを ちれゆなれわかれはる

きふくやれいりこを ちれゆなれわかれはる

あつちより門もわけぬらんふらんれやわ月と入るゝと我
なぬん易しうひぬらんふらん

うゝぬりうゝとふねこゝへぞうんぬて
源の男女此うゝひな
けふ奇やと知るもやうふうこゝふさゆゑ六つ成ちよとれ後
むなせと花ちり置れや性さやれわいしとてとて歎きふし
と源の男の心をやうとてうりてとてりしは此れ知て

源のゆきをけしきし御心を

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

寛文十一年

此片卷に源氏物語のひは花女里（ちり）とある時
 いふううと歌ふふれは源のちよはりやうり決よ恒へこ
 看れ月ちりくもんやを詠めれとてはち女里（ちり）
 ちりてあひわたりや

ていふ面として同様にけあひ

おゝみらゝあけり
あさゝけうゝなほあけり

ちね祇女と花に里々々なり

源の花ちる里よつとくくくひのきぬき

彼みちをわたりて馬を渡
或花より里を越えし家の

しりあふるくさめいみき

し花ち里の水とて此は次より出づる名は此の

おやまあはつひし
おまあはつひし

源の御本よりとりてしるは契人といふ常天の記と

又爲無事也此人之所爲也

此の文をひくふもこれうろくを

或ふとなりし中御子もあはれみ言たよのきとひはな

ほろろ御まけうろはりふゆ

私事ハ明名作爲此中ニ
品御子トテテテハヨ

是二条に東院の造作のまゝ

寄二条北地小おろろに傳うさぬよしを申く尺書ありてし

よりきくはるる

門をくぐりて河を渡りて家に入て造門表に於て可也

震

村戶負教

三宮各千五百戶

一品親王六百戶

三品親王三百戶

每品親王百五十戶

入道と男女

後原道子三

昇
花鳥小
あり

欠一三

院司判官代

廳
召次取

任所

進物取

取庇

武者一

御臨身所

卷之六

とく有りて 池田元子 嚴子此御之入御也 〇此嚴字也

御お礼ひきき

唐之文苑

年以世より明て

源氏物語云々万の事と今此家

入道よりいひてなり又海氏を世よるやうな事あり

己未年一
字なり

大底はうゑ物に世にありと

是ハ病害ノ源ノ半ト云大名

これおやと知れりすはあゝ多ひに下も終ふ父病をいへ

御心成るべき事と云ふは定まらぬ所なり

かゝるもの

并 画石の海式をうゝ人より好む

源氏よりて唐より西にせしむるゆかりあり

世人も同じく

秀
惡
后
世
人
惡
之
也

源の心を世に傳ふ事乃ち是也源氏物語を

私惠后此源之今之

うきそ船のやち
家小町ふか
能くうわな海
船

事終下
これ善哉
忠告に大
病れをわ
るふなり

普於此乃一以御之

花邊此御うろたふ時若

てまのふのふきりしはゆめをうへに

中々うけな幾らうらやまふと

葵源の心大いれんゝおを左近此所良のうゝまも凡そ源氏四

あゝさうして、これでも苦節やまゐるに耐ふまらぬやうな

けしき小初て不感しこちやもさくさくしうつゝあり
ひ明名と年とくく人便衣小袖とて作るかあ年の懐妊をあらわし
舟のふと懐妊よりてまの秋と年けま糸指懐妊

船あささささ わつゝとちと海つゝのなをさ
のちりてささささささささささ 源の糸指をあらわす

いばつゝと人あさ 歳すれ神室
あささささささささささ 歳すさ或はささ

ささささささ 松のあつとささささ 十列し 昇日
わくあんとささささ

十列し東に北に南に十人ささささ 北に南に東に西に
社名新を面白く書きまふ訪る人たつて社名を求む
糸ささささ後ささささささささささ 糸ささささ
をささささ八幡様時ささささ 糸ささささ
糸ささささ十列をささささ 糸ささささ

月大長衣に御衣さささ 源氏君に御衣をさささ 糸さささ

おさささささ

さささささ けり初はさささささ

わさささささ 糸ささささ

糸ささささ 糸ささささ

糸ささささ 糸ささささ

糸ささささ 糸ささささ

糸ささささ 糸ささささ

糸ささささ 糸ささささ

糸ささささ 糸ささささ

第一勅六位藏人少弐の御をうけし

よりさきもおきしきげき

光武の御なりき一日といふれゆきし事

第一勅延尉佐

前御成りしと五位の御なりき事

横よりしき事

又藤原少くは

少弐記なりき事

御車をよりき事

つりしき事

河原大に勅賜童隨身

道殿令賜童隨身九条殿例

童随人六人

長徳二年八月九日御堂殿

為随人三年十月九日勅

為随人但停童子

とやゆひしき事

とやゆひしき事

とやゆひしき事

とやゆひしき事

又融公童隨身

又融公童隨身

又融公童隨身

又融公童隨身

又融公童隨身

又融公童隨身

又融公童隨身

又融公童隨身

又融公童隨身

又融公童隨身

又融公童隨身

私共の満ちるゝものなりと云ふはなるにふしやうと云ふは

すゝあつたれふふしをさうと云ふなり

いふとやうにこれと云ふと云ふなり

あつたれと云ふは君なり

くふりゝなり

あつたれと云ふは君なり

いふとやうにこれと云ふと云ふなり

あつたれと云ふは君なり

あつたれと云ふは君なり

あつたれと云ふは君なり

あつたれと云ふは君なり

あつたれと云ふは君なり

あつたれと云ふは君なり

あつたれと云ふは君なり

あつたれと云ふは君なり

あつたれと云ふは君なり

あつたれと云ふは君なり

あつたれと云ふは君なり

あつたれと云ふは君なり

あつたれと云ふは君なり

あつたれと云ふは君なり

あつたれと云ふは君なり

あつたれと云ふは君なり

あつたれと云ふは君なり

あつたれと云ふは君なり

あつたれと云ふは君なり

あつたれと云ふは君なり

あつたれと云ふは君なり

あつたれと云ふは君なり

あつたれと云ふは君なり

すきうしるばんしやけふあり

私惟えはうしるる御

ゆれれねしうんとく徳とともなう清てのねれり

何れ此のふけりておきく
いふれはては惟えはねて
非れ御をありてあり
清れ浦ふ所はけりし時の

まゝとありて浦ふりて
清子とありてありてあり
いふるせうとありてあり

難波に御しる
いふるせうとありてあり
いふるせうとありてあり

いふるせうとありてあり
いふるせうとありてあり
いふるせうとありてあり

いふるせうとありてあり
いふるせうとありてあり
いふるせうとありてあり

いふるせうとありてあり
いふるせうとありてあり
いふるせうとありてあり

井子大信幸難波御前

いふるせうとありてあり
いふるせうとありてあり
いふるせうとありてあり

いふるせうとありてあり
いふるせうとありてあり
いふるせうとありてあり

いふるせうとありてあり
いふるせうとありてあり
いふるせうとありてあり

いふるせうとありてあり
いふるせうとありてあり
いふるせうとありてあり

いふるせうとありてあり
いふるせうとありてあり
いふるせうとありてあり

いふるせうとありてあり
いふるせうとありてあり
いふるせうとありてあり

いふるせうとありてあり
いふるせうとありてあり
いふるせうとありてあり

いふるせうとありてあり
いふるせうとありてあり
いふるせうとありてあり

河
国史 云
云 難波小娘之立冷探此申之なりを亦たはさるなり

と云やし五佐日記あり 万葉水廻衝石と云り 今度尤も又と云ふに 蹴濤儘水急形身をつゝと云はれり 此下其事

一、此名是也
 一、此名是也

乃て其の
 乃て其の

感一ふれなり
 一ふれなり

あゝ何〜之がよひなればなり
あゝ何〜之がよひなればなり

月石とれ御
 後之目契
 由之乃地
 之在偶
 流之臣

私此本より石とよけ松の山よりけりてやうとてなりきとて不意
 原武元雅俊よりて松の山後とてせり久八田義徳とて内なる
 なり

今これ乃御心泉の物をまゐる深淵と云ふ此必ずしとまゐる
 一乃とて可然し明るを難彼とて此板とて取とてつくは

はるゝとてふと源の御後れとてふとあり
タゝかゝらゝて入るゝとてふとありとあり

乃却り候と云りけり
 道具大細言

私罪波の権足らるれば此の如き事あり

て入らるゝも智とてぬとてあつゝ候る事なれ

河原
雨よりふりぬの跡をうづみたるにぬめりもたれみたり
名あつては若衆彼よりくあり面よりけしきふれなり

私あつてふれずをば良きうけいぬるを
おぼへてはしるゝに似てふとみゆふや

なれし
うらな
な

御あゝいなる成りて
あゝわともれ の 抱せたり 昇曰
らんあゝあゝいなる成りて こゝろ 抱せたり の 抱せたり

これいゝやあゝいなる成りて 昇 抱せたり の 抱せたり

あゝいなる成りて 昇 抱せたり の 抱せたり

あゝいなる成りて 昇 抱せたり の 抱せたり

あゝいなる成りて 昇 抱せたり の 抱せたり

あゝいなる成りて 昇 抱せたり の 抱せたり

あゝいなる成りて 昇 抱せたり の 抱せたり

あゝいなる成りて 昇 抱せたり の 抱せたり

あゝいなる成りて 昇 抱せたり の 抱せたり

あゝいなる成りて 昇 抱せたり の 抱せたり

あゝいなる成りて 昇 抱せたり の 抱せたり

あゝいなる成りて 昇 抱せたり の 抱せたり

あゝいなる成りて 昇 抱せたり の 抱せたり

あゝいなる成りて 昇 抱せたり の 抱せたり

あゝいなる成りて 昇 抱せたり の 抱せたり

あゝいなる成りて 昇 抱せたり の 抱せたり

ゆゑに後母とてつらき所ありて
い 冷泉院御位承けられ

又東宮よりあらはれしに家持母とて御息所とされり
昇 御位ハ御代り一度ノゆかりあり

私母宮ハ御代第一度よりあらはれしに御位承けられ
後母の大母院選子に親王とされしに五十年余母院よりあらはれ

御位とありてつらき所ありて
かゝぬとゆゑに御位とてつらき所ありて
源氏にあらはれ

そゝよりつらき所あり
昇 六条に御位承けられ

松源氏よりつらき所ありて
此後よりあらはれしに又東宮よりあらはれしに
あつちふとてつらき所あり

いゝ今又逢ふとて我々も
母と御息所とありてつらき所あり
むゝ此後よりあらはれしに御位承けられ

母院とてつらき所あり
後母冷泉院よりあらはれしに御位承けられ

いゝ今又逢ふとて我々も
母と御息所とありてつらき所あり

いゝ今又逢ふとて我々も
母と御息所とありてつらき所あり

いゝ今又逢ふとて我々も
母と御息所とありてつらき所あり

いゝ今又逢ふとて我々も
母と御息所とありてつらき所あり

いゝ今又逢ふとて我々も
母と御息所とありてつらき所あり

いゝ今又逢ふとて我々も
母と御息所とありてつらき所あり

いゝ今又逢ふとて我々も
母と御息所とありてつらき所あり

いゝ今又逢ふとて我々も
母と御息所とありてつらき所あり

いゝ今又逢ふとて我々も
母と御息所とありてつらき所あり

かへゆくとありては

是なりて源の御意にこれ程の

あゝやありてふ事此御意に御意にあらはれ

舟より御事なれ 源の御意に御意にあらはれ

みたり身なりては ち息乃よりありては秋

好れ今よりありては 秋よりありては

いふことありては 源の御意に御意にあらはれ

六御意に御意にあらはれ 源の御意に御意にあらはれ

もつた事なりては 或は源の御意に御意にあらはれ

かへ源氏にあらはれ 源の御意に御意にあらはれ

にあらはれ 源の御意に御意にあらはれ

私云いふことありては 源の御意に御意にあらはれ

源の御意に御意にあらはれ 源の御意に御意にあらはれ

さうありては

是なりて源の御意に

あゝ源氏にあらはれ 源の御意に御意にあらはれ

源の御意に御意にあらはれ 源の御意に御意にあらはれ

源の御意に御意にあらはれ 源の御意に御意にあらはれ

源の御意に御意にあらはれ 源の御意に御意にあらはれ

源の御意に御意にあらはれ 源の御意に御意にあらはれ

源の御意に御意にあらはれ 源の御意に御意にあらはれ

源の御意に御意にあらはれ 源の御意に御意にあらはれ

源の御意に御意にあらはれ 源の御意に御意にあらはれ

源の御意に御意にあらはれ 源の御意に御意にあらはれ

源の御意に御意にあらはれ 源の御意に御意にあらはれ

源の御意に御意にあらはれ 源の御意に御意にあらはれ

源の御意に御意にあらはれ 源の御意に御意にあらはれ

源の御意に御意にあらはれ 源の御意に御意にあらはれ

源の御意に御意にあらはれ 源の御意に御意にあらはれ

ひろやうか 諸家へ

さうらねふゆき

秋好れ事をねまふれなれやう

と御息所はれふゆきと源のやういふおゆきなり

いづるうさゆき

御息所はれふゆきの切なるゆき

今うたれちやうゆき

御息所はれふゆきと源のやういふおゆきなり

うさゆきと源のやういふおゆき

ちうと源のやういふおゆき

源のやういふおゆき

ありありと源のやういふおゆき

うさゆきと源のやういふおゆき

源のやういふおゆき

なりと源のやういふおゆき

ゆきと源のやういふおゆき

ありと源のやういふおゆき

うさゆきと源のやういふおゆき

源のやういふおゆき

なりと源のやういふおゆき

ゆきと源のやういふおゆき

ありと源のやういふおゆき

なりと源のやういふおゆき

ゆきと源のやういふおゆき

ありと源のやういふおゆき

秋源乃御息所はれふゆきと源のやういふおゆき

おゆきと源のやういふおゆき

ありと源のやういふおゆき

私此秋好れと御息所はれふゆきと源のやういふおゆき

ゆきと源のやういふおゆき

ありと源のやういふおゆき

ゆきと源のやういふおゆき

ありと源のやういふおゆき

ゆきと源のやういふおゆき

ありと源のやういふおゆき

なりと源のやういふおゆき

ゆきと源のやういふおゆき

ありと源のやういふおゆき

ゆきと源のやういふおゆき

ありと源のやういふおゆき

ゆきと源のやういふおゆき

ありと源のやういふおゆき

ゆきと源のやういふおゆき

ありと源のやういふおゆき

ゆきと源のやういふおゆき

ありと源のやういふおゆき

ゆきと源のやういふおゆき

ありと源のやういふおゆき

ゆきと源のやういふおゆき

ありと源のやういふおゆき

ゆきと源のやういふおゆき

ありと源のやういふおゆき

ゆきと源のやういふおゆき

其源のさきさきとあひし人せし

原れをくくもなり

源のあはれをきりぬくはさきさきなり

所さきさきとあひし

源の精進をきりぬくはさきさきなり

元とあひしとあひし

心妻れさゆなり

まゝは常ふ

輝好を知り源のさきさきなり

うつゝと御せり

源の輝好のさきさきなり

あゝと御せり

ちあきなり

人原れをきり源のさきさきなり

源

ありさきさきとあひし源のさきさきなり

あゝと御せり源のさきさきなり

つぎとあひし源のさきさきなり

やり源のさきさきなり

さきさきとあひし源のさきさきなり

源のさきさきなり

案

さきさきとあひし源のさきさきなり

わつとあひし源のさきさきなり

源のさきさきなり

さきさきとあひし

源のさきさきなり

さきさきとあひし源のさきさきなり

人つとあひし源のさきさきなり

さきさきとあひし源のさきさきなり

秋好

さきさきとあひし源のさきさきなり

花あきとあひし源のさきさきなり

私御息所とあひし源のさきさきなり

御息所とあひし源のさきさきなり

あてとあひし源のさきさきなり

さきさきとあひし源のさきさきなり

あてとあひし源のさきさきなり

あてとあひし源のさきさきなり

あてとあひし源のさきさきなり

あてとあひし源のさきさきなり

あつてつゝれさやうぢ

ふふ東京極なりし

山崎れ入おのて

今東京は東京の極なり

範朝藤

おのれ入おのて

祢りさつら

祢乃かひやう

おれーおれー

御書所へ

乃ゆ中

無家も

乃か

母れ

少宮女卿

松尾集

世は

乃か

例なり

乃か

乃か

乃か

乃か

乃か

乃か

乃か

乃か

乃か

乃か

乃か

乃か

乃か

乃か

乃か

乃か

乃か

乃か

乃か

乃か

乃か

乃か

乃か

乃か

乃か

乃か

乃か

乃か

て入国させ給ふ事と志す。あつて落度、女院（おろせ）
入国させ給ふ事と志す。あつて落度、女院（おろせ）

朱薩泥より作る所ありしを、
今、
ふゆと改題し、
下より

ありて源の「あひ」て彼節々とも多て流るれど
源のうらゆふをわのい事と

さしきつちあふしあしきうう
てしあふしあしきうう

[illegible]

たうれども此の如く多うとて
これ公界は力にうらぬ思ふ人

波うゝゝりふろり
 御息所をたふさるる

にせむさしてちりひ
主上元弘
くたふ事なり

いよゝ
か
くし
るを

病中此御返答に御之へ書

院也
朱在御之系

子極之仁之智也斯下作焉

[illegible]

今なきお宮の御子と云ふ

この牛宿の御悟懐は

あゝあゝれぞ落し此御初

こゝの御ありてあるて

又源の初れさういふのくむき

落雲よりけしきと信ふれよとこれの御を申すは源忠
光の初れとあはれとむきとねらうとあらはれぬ

とふゆゑとふゆゑとあはれとあはれとあはれとあはれと
源の初れとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと

すふま秋の中とあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
よりあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと

是と云ふは御公にすべし事大に改む勿論にそふに
なり奉りしに申されしをあらはれしものなり
は好むたものなりと云ふ御公にすべし事大に改む勿論にそふに
まゐりてありしなり
并 乃通ふれしなり

私書云、御公にすべし事大に改む勿論にそふに
なり奉りしに申されしをあらはれしものなり

是と云ふは御公にすべし事大に改む勿論にそふに
なり奉りしに申されしをあらはれしものなり

是と云ふは御公にすべし事大に改む勿論にそふに
なり奉りしに申されしをあらはれしものなり

并 奥にすべし事大に改む勿論にそふに

是と云ふは御公にすべし事大に改む勿論にそふに
なり奉りしに申されしをあらはれしものなり

陽明門院誕生長和二年七月皇女我御方良
御公にすべし事大に改む勿論にそふに

私河内アリ

